

“き”がわりを“き”がえる

インスタレーション 10月10日(土)~12日(月・祝) KAWAGUCHI ART FACTORY
アート井戸端かいぎ 10月18日(日) 川口市芝公民館

KAWAGUCHI ART FACTORYでの3日間、これは建築のインスタレーションである。SMFのようなアーティスティックなところに身を置いていると、ついラディカルな思想に惹きつけられるようになり、安保や原発だけではなく、長期優良住宅のようにまっとうな政策にも噛みつきたくなるものだ。

もちろん器としての建物の寿命は長いにこしたことはないのだが、ただ一度限りの人生、その時々、もっとも好ましい居処で過ごしたい。となると、住まいの寿命は短い方がいい。僕たちがTPOで衣服を着替えるように、建物でもしつらいを替えて、その時をもっとも相応しく装えば、豊かに暮らせることをインスタレーションで表現しようともくろんだ。そこでニコラス・ジョン・ハブラーケンの思想に倣い、サポート(軸組)を造りインフィル(間仕切りや内装)を纏い日常をつくり、それを着替えるインスタレーションで非日常の演劇空間を表現してもらった。建築、美術、音楽、演劇、ダンスのジャムセッションである。



「建物のなかに建物がある

建物のなかに建物ができ、生まれた、湧いた、果食った、生きはじめた

外は肉体を放棄して衣となり

内は衣の中に衣をまとう

骨の、衣の、肉体の、その衣の

ーさびる」

その前半のリフレインがあり、

「骨の、衣の、肉体の、その衣の



一青い青い記憶」

と終わる即興詩で、快飛行家スミスが表現して下さった刺激的な舞台、観客の皆さんの居心地はどうだったろうか。居心地は五感で味わうもの、理屈はいらない。そんなところが建築空間もアートに寄り添える所以なのだろう。

しかし同時に建築は技術でもあるから、目的があり用途がある。そこで使用説明書の理屈も必要となり、それが芝公民館で開催された「アート井戸端かいぎ」だった。アーティスティックな三日間を振り返りながらきがえて変わることによって住み心地よい環境をつくってゆく知恵を語り合ったシンポジウムである。(KM)

きたうらワンがまちをジャック! -7つの間違いを探せ!!-

9月26日(土) 北浦和西口銀座商店街

北浦和西口銀座商店街のイベント、9月の「ちびっ子広場」が開催されるその日に「きたうらワン」が街をジャック(!?)しました。ジャックといってもテロではありません。200枚のポスターを使って街をジャックしたのです。実はポスターの中には7つの間違いが隠されていて、ワークシートを使って間違いを探してもらい、すべて見つけられた人にはプレゼントを贈呈というものです。いよいよ4時、待ち構えた子どもたちがワークシートを片手に走り出しました。でもこの、7つの間違いはとても難しく、ヒントなしにはなかなか見つけることができません。そこでご協力いただいている商店主さんの店先に間違い入りのポスターを張らせていただき、それとなくヒントを出してもらうことにしました。実際ふたを開けてみると子どもたちの集中力は素晴らしく、上手に街の人たちとコミュニケーションをとりながら、多くが全問正解にたどり着きました。最終的に215名の方



きたうらワンの缶バッジを贈呈することができました。

またこの日は「ロボぐるみ」による大運動会も開催されました。ロボぐるみとは夏休みに埼玉県立近代美術館に「押忍!手芸部」の石澤部長さんをお招きして実施したワークショップで、参加者が作った動くぬいぐるみのことで、運動会にあわせて参加者に持参していただきました。総勢12体の「ロボぐるみ」が挑んだ競技は、徒競走とお相撲の2つでした。ワークショップ講師の石澤部長もスターターとして協力していただくなど、本物の競技会のような雰囲気ではまりました。引き続き「ロボ相撲・北浦和場所」では、美術館の矢花さんが行司に扮してトーナメント戦が行われました。どちらも大いに盛り上がり、徒競走の上位3名と相撲の優勝・準優勝には手製のメダルが、そしてさらに参加者全員へきたうらワンの缶バッジが贈呈されました。ここでも「きたうらワン」は大活躍でした。(S.I)

SeeSewとは、2014年に結成した、写真作家・浅見俊哉と衣裳家・田村香織のアーティストユニットで、写真家の視点と衣裳家の視点を生かしたワークショップやものづくりを提案しています。時間のきものプロジェクトとは、季節の時間(植物の影)を写真の古典技法を用いて反物に直接焼き付け、着物に仕立てるプロジェクト。今回、満開の春の時間、青々と葉の茂る夏の時間のきものを身にまとい、ダンサーの黒田なつ子、幅田彩加、音楽家・松本一哉の3人が春と夏の時間や季節の移り変わりを北浦和公園の環境を生かしてダイナミックに表現しました。当日は約80名の方のご来場があり、来場者からは「蟬の音や公園の木々を改めて意識することができるパフォーマンス作品で、ダンサー、音楽、着物が調和したとても印象に残る作品だった」「ダンサーの動きのよってまるできもの柄自体に命が宿っているようにみえた」「あつという間に過ぎた。もっと観たかった。」という感想を得ることができました。(S.A)

「時間」がおどる夏 8月16日(日) 北浦和公園
「時間」がおどる秋 11月8日(日) 別所沼公園

時間のきものプロジェクト



「衣と体のせめぎあい」 お披露目パフォーマンス

9月27日(日) 入間市博物館アリット
10月12日(月・祝) KAWAGUCHI ART FACTORY
10月25日(日) 北浦和西口銀座商店街

7月にコスチューム制作者公募、8月のパフォーマーとの顔合わせから始まった「衣と体のせめぎあい」。9月の途中経過報告会で、コスチュームアーティストひびのこづえさんに再度アドバイスをいただき、県内各地でコスチュームとパフォーマンスのお披露目が始まりました。入間市博物館の天井の高いエントランス、川口の廃工場、北浦和西口銀座商店街のハロウィーンの雑踏の中、コスチューム制作者とパフォーマーが、意見交換しつつ創り上げてきたコスチュームとそこから生まれる想定外のパフォーマンス。

11月8日には別所沼公園でお披露目、そして11月21日にはフィナーレ、17体のオリジナルコスチュームが北浦和公園、埼玉県立近代美術館に結集します。パフォーマンスも北浦和バージョンに。だれも見たいものを見せたいというSMFの真骨頂、見逃せませんよ。(S.Y)



▲入間市博物館アリット



▲KAWAGUCHI ART FACTORY コスチューム制作者とパフォーマー



▲北浦和西口銀座商店街



アート日和 旅する小さな家が やってきた@楽風

11月12日(木)~24日(火) 日本茶喫茶 楽風

旅 する小さな家の旅先として、浦和の中山道にある民家を喫茶店として活用している「楽風」を選びました。旅先の候補として、広大な自然公園や、大学のキャンパス、廃工場の中など、様々な場所を検討しましたが、「楽風」が一番適していると思いました。「楽風」はもともと民家なので、場所としてはとてもプライベートな性質を持っていますが、一方で、とても人気の喫茶店なので、様々な人が訪れる、非常にパブリックな場所でもあるという、両義的な性質を持った場所なのです。それが、旅する小さな家にとっても合っていると思いました。旅する小さな家も、外からは中の様子をうかがい知ることができないのに、中に入ると外の景色が入り込んでくる、不思議な空間だからです。しかも、中から感じられる外の景色は、何か遠くに存在する風景のように、非日常的に感じられるのです。そんな不思議な空間を、多くの人々が往来する民家に置いてみたら何が起きるだろう。そんな興味で、旅先に「楽風」を選びました。パブリックな場所となった、元来プライベートな場所、それを積層された板の隙間から、断片的な距離感を持ったイメージとして、旅する小さな家の内部の暗闇から感じるとき、「楽風」の庭はどんな空間に変容するのか。これは、浦和の中山道という都市空間の一角にある小さなポケットパークのような空間における、小さな小さな空間装置を使った、都市空間の距離と密度のたいなる実験なのです。

旅する小さな家の中の暗闇にもぐり込み、「楽風」という民家に流れる都市空間の中の束の間の「旅」を楽しんでみませんか。



日本茶喫茶 楽風
〒330-0064 埼玉県さいたま市浦和区岸町4-25-12
浦和駅西口より徒歩約10分
Tel.048-825-3910
水曜定休 午前10時~午後7時

なお19日~24日は美術家・井上唯さんの作品《旅するキノコ》もご覧いただけます。(S.S)



連携美術館情報

入間市博物館アリット

アリットフェスタ2015 特別展「板碑で読み解く
武士と寺院—私の身近にある中世—」
10/31~12/13

中世(鎌倉時代から戦国時代)に埼玉県内に盛んに造立された板碑をもとに、入間地域の武蔵武士や寺院の歴史を解き明かします。

うらわ美術館

「縫い—その造形の魅力」11/14~2016/1/17

今まで「美術」の枠組みで紹介される機会があまりなかった裁縫や刺繍。さいたま市が所蔵する裁縫雛形を端緒として、繊細でありながら大胆な縫いの造形を展示します。さらに、現代のアーティストによる多彩な表現を紹介します。

川口市立アートギャラリー・アトリア

第10回アーティスト・イン・スクール成果発表展
出田 郷×川口市立里小学校5年生123名
「ぼくらはひかりを変えられる」
11/21~12/6

川口市内の小中学校にアーティストやデザイナーを派遣し、特別な授業を行う「アーティスト・イン・スクール」。今回は里小学校の5年生と現代美術家・出田 郷がひかりと色を反射させ、動かすことのできる作品を制作し展示します。

川越市立美術館

「ペインティングの現在—4人の平面作品から—」
10/31~12/23

埼玉県西部地域に根差し最前線で活躍する作

家、高橋大輔・荻野僚介・浅見貴子・樺山祐和を紹介。作家を知り、作品に出会うことで現在の平面絵画のあり方を体感いただけます。

埼玉県立近代美術館

今回の企画展「旅と芸術—発見・驚異・夢想」
11/14~2016/1/31

旅は私たちに世界の多様性を教え、古くから創造力の源泉となってきました。旅をめぐる様々なテーマを、主に西洋近代の絵画や版画、写真、挿絵本などを通して読み解きながら、旅と芸術の物語へ誘います。(A.O)

